

# 白梅学園高等学校

## 第五十四回卒業式 式 辞

今年の一月、二月は地球温暖化を実感させられるような暖冬傾向の様相を呈し、その中で、私たちは新型コロナウイルス感染拡大に対して最大限の注意を払いながら過ごし、弥生三月の本日を迎えました。

本日、白梅学園高等学校第五十四回卒業式を挙げるに当たり、井原理事長様のご臨席のもと、本校第五十四期生の晴れの門出を祝うことができますことを大変うれしく思います。

ただいま卒業証書を授与された第五十四期生二百二十八名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは平成二十九年四月に本校に入学し、三か年間の高等学校教育課程を修了し、本日、卒業の日を迎えました。

今月十一日で、平成二十三年の東日本大震災発生から丸九年を迎えます。そのような中で、首都圏直下型大地震、南海トラフを震源とする東南海・南海大地震の発生に備えた防災取組が求められています。今も東北地方や茨城県、千葉県東方沖を震源とする震度三～四規模の地震が続いています。

科学者・寺田寅彦の言葉とされる「天災は忘れたころにやってくる」、の例えが教えているように、時間の経過とともに、災害に対する私たちの記憶や意識は薄れがちです。三月十一日を迎えるたびに、私たち一人ひとりが、地震や水害等の災害への思いを新たに、未曾有の災害に備える決意と姿勢を持ち続けることが重要だと考えます。

流動性、多様性がますます強まるグローバル時代の二十一世紀を生き抜いていく第五十四期生の皆さん、皆さんは本校三か年間の学校生活を通じて、「満足できる幸福な人生、ウェル・ビーイング (well being) を送るために生涯学び続けようとする姿勢」を探し当てることができたでしょうか。

二十一世紀は人生一〇〇年を生きる時代だと言われています。そのためにも、「主体的・意欲的に学び、知識を知恵に昇華し、それを糧にして長く豊かに生き続ける」ウェル・ビーイングを実現することが重要です。

トビタテ留学 JAPAN プロジェクトディレクターの船橋 力さんが「これからの時代に必要な7つのC」を示しています。

- ①すべての原動力となる Curiosity (好奇心)
- ②積極的かつ主体的に行動するための Challenge(挑戦意欲)
- ③デザインが重要な Communication (コミュニケーション)
- ④日本人の強みである Courtesy (礼儀正しさ)
- ⑤持ち味を発揮するための Characteristics (特性・特色)
- ⑥複雑な課題に対して、異なった才能を持つ人々が結集し、チームで解決に当たる Collaboration (協働)  
Collective genius (コレクティブ・ジーニアス)
- ⑦多様性のなかでのぶつかり合いがイノベーションを生む Contribution (貢献)

これからの VUCA ワールド：Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）を生き抜くために、これら7つのCを身に付け、社会で活躍してくれることを期待しています。

本日、卒業生の保護者の皆様方にご出席いただくことが叶いませんでしたが、あらためてお祝いと御礼を申し上げます。

お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様が高等学校教育を修了される今日の良き日を迎えるまでに、ご家庭では、うれしいこと、苦しいこと、さまざまなことがあったことと存じます。

そのたびに、ご家族で力を合わせて取り組まれたご努力の積み重ねが、本日のお喜びに結びついたことに、改めて敬意を表し、三か年間の本校の教育に対するご理解とご支援に感謝申し上げます。

明日から、お子様の新たな生活が始まります。今後とも、お子様の成長を見守り、励まし、支え続けてくださいますよう、お願い申し上げます。

終わりに、本日卒業する第五十四期生の皆さんに、今後も白梅学園の精神的根幹としての「学園歌：求むる道の一筋に たわみて折れぬ姿こそ 学びの道の願いなれ」を改めて心に置き、Lady Shiraumeの本領を継承・発揮してくださることを願い、式辞といたします。

令和二年三月五日

白梅学園高等学校

校長

青山

彰